

平成27年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第5学年国語

1 調査結果の分析

(1) 資料選択について(①～③)

ア 本文と資料を関係付けて読み取る力・・・①

①は、【話し合いの様子】での立場や意見の根拠となる資料を読み取る設問である。正答率は66.8%であった。誤答としては、「クラス対抗に賛成の人数が、たてわり班対抗の賛成の人数より多い。」というように、答えを逆にして考えた児童が多かった。これは、資料2のクラス対抗、たてわり班対抗それぞれに賛成する児童の合計数をただ読み取り、そのままの順序で解答したことが誤答につながったと考えられる。何が何より多いのかという主述の関係をしっかりと意識させる、解答をもう一度読み返す習慣を身に付けさせるといった点が重要である。

イ 話し手、意見、理由を本文から読み取る力・・・②

②は、【話し合いの様子】を読んで、意見を言っている人、意見、理由の組み合わせで正しいものを選ぶ設問であり、正答率は73.6%であった。②と誤答する児童が多かった。本文には、「練習時間がとりやすい」とあるが、その理由に当たる選択肢がない。そこで、「練習時間がとりやすい」を「クラスの団結力が高まる」ととらえ、②を選んだと思われる。自分の解釈で考えず、本文の叙述と同じものはないかという視点で選択肢を絞っていく習慣を身に付けさせる必要がある。また、最初の選択肢だけ読んで解答を終わりにするのではなく、①～⑤すべてを読んでどれが正しいのか熟考させることも大切である。

ウ 話し手の意図を正しくとらえる力・・・③

たてわり班対抗の問題点を資料から読み取る③の設問は、正答率が76.0%であった。設問の意図は【話し合いの様子】の中で、直前に発言されている内容を踏まえて、想定される次の発言を考えるというものであった。誤答としては、資料3だけを読んで「低学年に8の字とびはむずかしい。」と答える児童が多かった。こうした誤答を防ぐには、空欄の前後で何が話題になっているのかをしっかりとらえる、解答した後に文意の通じない箇所がないか読み返しをするといったことが重要になる。

(2) 記述問題について(④～⑨)

④～⑨は、読み取ったことを基にして、自分の考えを論理的に記述する設問である。指定された文字数に達していないと④が誤答、⑤以下がすべて無答となる。

ア 制限時間内に指定された文字数で記述する力・・・④

④は、指定された文字数以上で文章を書こうとすると実際にどのくらい書けるのかという技能を見取る設問である。正答率は85.3%。昨年度の5学年が78.6%であったことを考えると、児童の記述する力に改善傾向が見られる。誤答の原因としては、記述する内容がふくらまないために指定の文字数までたどり着かない、条件は踏まえようとしているものの時間内に書き切れないことが考えられる。

イ 段落を構成する力・・・⑤

正答率は75.5%、誤答率は13.0%であった。昨年度の5学年がそれぞれ60.2%、20.7%であることから、段落に対する理解が深まっていることが分かる。一方で、4段落という

指定があるのに3段落で書いている、それぞれの段落に何を書かなければならないのか区別ができていないといった誤答の傾向が見られた。段落が変わったら、1字下げて書くことを普段の授業から意識させる、書いた段落を1つずつ読み返し、内容が正しいか確認することが児童には求められる。

ウ 自分の立場を明確にして記述する力・・・(⑥)

正答率は88.8%、誤答率が0.8%という点から、第1段落で立場をはっきりさせてから文章を書くということに慣れていることがうかがえる。設問にある組み立て表を児童がしっかりと読み取り、記述する際の参考に使っている表れだを考える。今後も普段の授業の中で話型を示したり、上手な児童を賞賛したりして、立場を先に述べるという話し方を児童に徹底したい。同時に無答率が10.4%であることも考慮しなければならない。これは、④で指定された文字数を満たして書けなかった児童がいたことが影響していると思われる。

エ 理由を明確にして記述する力・・・(⑦)

正答率は77.7%。理由は1つという指定があるのに複数書いているという誤答が多かった。この原因として、自分がクラス対抗に賛成するために、どのような理由を書けば良いのか考えを整理できていない、あるいは必要な情報を資料から適切に選ばないといったことが考えられる。普段の国語科授業の中で、「始め—中—終わり」の3つに分かれた組み立て表を基に自分の考えを書かせ、内容を吟味する経験を積ませたい。

オ 理由に説得力をもたせて記述する力・・・(⑧)

正答率が57.2%であった。昨年度が46.3%であったことから、改善が見られる。しかし、依然として、条件を踏まえながら、自分の体験を入れて文章を書くことが難しかったようである。また、体験を思い出しても、どのように記述すればよいか分からない児童もいたと推測される。自分の体験や予想と結び付けて考えを書く経験を積ませる、自分の体験や予想について学級で討論するといった国語科授業を実践したい。

カ とらえた問題点について、自分の考えを記述する力・・・(⑨)

正答率が59.2%であった。クラス対抗の問題点とそれに対する自分の解決策に整合性がない、解決策を書く際に、話し合いの様子で記述されている情報を活用できていないといった誤答の傾向が見られる。授業の中では、課題に対して自分の考えが整合しているか、児童どうしで確認し合うような授業を展開する、互いの作文を読み合い、そのよさについて感想を交流し合う、資料からどんな情報が得られるのかを考えさせるといった手立てが必要である。

2 今後、重点的に指導してほしい活動

(1) 国語科の学習で

- いくつかの条件を示し、長い文章を書く経験を積ませること。自分の考えを表現したり、まとめたりするために、書く時間をしっかりと確保すること。
- 教師が観点を示した上で、書いた文章を自分または友達どうしで読み返すこと。
- 自分の体験や予想を挙げながら、テーマに沿って討論などを行うこと。

(2) 他教科や総合的な学習の時間で

- 図や表、写真などの非連続型テキストから、情報を取り出し、解釈すること。
- 学習したこと、調べたことを書く活動を中心にまとめること。その際には、内容の整合性まで教師がしっかりと見取ること。